

就労継続支援B型事業所カトレア

事業の総括

ノーマライゼーションの理念に基づき、利用者が地域社会の一員として自立生活を送るための生活面の支援と、就労に必要な知識および技能を高める就労継続支援に向けて、会是の「愛情」、「奉任」、「連帯」の精神を遵守し、目標の達成に努力しました。

<目標>

- 1 利用者の人権を尊重し、利用者中心のサービス提供を行いました。
- 2 利用者の自己決定自己選択を保障した支援に努めました。
- 3 個別支援計画に基づいて利用者の自立に向けた支援と利用者が意欲的に取り組める生産活動の充実に努めました。
- 4 利用者の安全確保に向けて取り組みを行い財源確保に努めました。
- 5 良質の福祉サービスを提供するため職員の資質の向上を図りました。
- 6 利用者の安全、安心が保障されたサービスの提供と環境の整備、維持管理に努めました。
- 7 利用者が経済的に自立できるよう工賃向上計画を作成し、その目標達成に努めました。

事業の概要

- 1 利用者の人権を尊重した支援に努めました。障がいを持つ人も、持たない人も人間として同等の人的尊厳と人権を有するというノーマライゼーションの理念を施設の理念や基本方針に明示し職員に徹底し実践できるよう努めました。
 - (1) 職員の人権意識の徹底への取り組みとして
ノーマライゼーションや福祉の理念、人権擁護などについての学習会を行い、法人の理念や目標の理解と徹底を図りました。
利用者の障がい特性や事例検討についての学習を行いました。(定期的、施設内研修会)
日々の支援活動の中で、利用者の人権を意識した支援についての検討や反省について、ミーティングで検証していきました。
同僚間で注意し合い、互いを高めていく努力をしました。
- 2 利用者の自己決定自己選択を保障するサービスに努めました。
 - (1) 利用者一人ひとりの想いを大事にし、自己決定、自己選択ができる場面設定や、意思表示の手段等に配慮のあるサービスを行うため以下の課題について学習に取り組みました。
利用者が自己決定、自己選択できる能力の養成への取り組みを行い、利用者のコミュニケーション能力を個々の障がい特性に応じ高めていく支援を心掛けました。
利用者が自己決定、自己選択できる場所、機会を設定するよう努力しました。
情報の提供に努めました。
利用者との信頼関係の構築に努め、利用者へ、想いを話してもらえる関係を深めるよう努めました。
日課の中の、朝夕の集いや自治会活動、行事への取組等の支援の中で、利用者が自主的、積極的に、意見や要求が出せるような環境を整え、全ての関わりの中で配慮した対応をするよう努めました。

3 個別支援計画書の策定とそれに沿った支援に努めました。

- (1) 全職員が利用者のニーズに応えられる支援計画が立てられる力量、またエンパワメントの視点で支援できる力量をつける取り組みを進めました。

利用者の個別支援の課題設定は、個別支援計画をプログラム化し、目標達成に向けて、意欲的に取り組めるよう支援しました。

支援のサイクルとして、観察、(記録)集約、分析、目標設定、手だて(5W2H)実践、評価で行い、利用者担当が、定期的にモニタリングを行い確認しました。

- (2) 基本的な日常の自立生活へ向けての支援に努めました。

利用時には、利用者個人個人に応じた個別支援計画書の作成を行い、また、必要に応じ、その見直しを行いました。

作成した個別支援計画書は、利用者および契約支援者(扶養義務者)に十分な説明を行い、理解を得るように努めました。

職員は、利用者およびその扶養義務者の人権の尊重、プライバシーの保護に努めるとともに、業務上知り得た個人の情報は他に漏らさないよう徹底しました。

苦情解決の窓口は、次の通りでした。

ア カトレア等に関する苦情や相談に対して、迅速かつ適切に対処するために、「とさ地区施設運営委員会」を設置して、意見箱を設け、苦情などの受付のほか、毎月1回、利用者の意見聴取の機会を設けました。

イ アの他に施設には、次のような苦情などの申し出窓口を設けて、常時、苦情の受付解決にあたることにしました。また、毎月1回、利用者懇談会を実施し、意見交換などを行いました。

苦情解決の責任者	カトレア施設長
苦情の申し出窓口	サービス管理責任者

利用者との関係または個人個人の利用者が抱えている悩み、不安の解決や調節に努めました。

利用者に対する日常生活上の相談、助言あるいは必要な支援を行いました。

- (3) 利用者の日常生活を通じて文化的、社会的活動への参加に努めました。

<平成25年度年間行事>

実施年月日	内容	実施場所	参加利用者数
平成25年4月3日	花見	鏡野公園	18
6月2日	障害者スポーツ大会	春野運動公園	12
9月21日	国府村まつり弁当作り	カトレア	
10月13日	高知リハビリテーション学院祭	高知リハ学院	
10月27日	土佐ゾーン涼風祭	カトレア	12
11月3日	ふれあいフェスタ	土佐市市民公園	
11月20日	日帰り旅行	馬路村ゆず工場	13
12月21日	クリスマス忘年会	カトレア	11
平成26年3月11日	波介地区老人会と花植え	カトレア	13

<係活動>

係名	人数	取り組みの内容
日直	当番制	司会、集合の合図、挨拶、作業予定、曜日
保健	8人	健康面での予防対策・配慮、
給食	8人	給食メニューの確認、連絡、配膳の担当決め
美化	7人	水やり、ペーパータオル・トイレトペーパー・マスク 手袋の管理、掃除の配分 掲示物のチェック

<クラブ活動>

月	実施状況	場所
5月	カラオケ・卓球	カトレア
6月	障害者スポーツ大会	春野運動公園他
7月	DVD鑑賞・卓球	カトレア
8月	カラオケ・絵画	カトレア
9月	DVD鑑賞	カトレア
10月	涼風祭	支援施設とさ
11月	カラオケ	カトレア
12月	クリスマス忘年会	カトレア
1月	カラオケ	カトレア
2月	DVD鑑賞	カトレア
3月	DVD鑑賞	カトレア

(4) 給食サービス

- ア カトレアの出勤日、すべての日にサービスの提供をしました。
- イ サービスの提供は昼食のみとし、その時間は12時から13時までとしました。
- ウ 2種類の選択メニューから、その日の主菜を利用者に選んでもらいました。
- エ 適切な食事の提供と健康の保持に努めました。
- オ 季節感のある食事や行事食の工夫をし、食事の楽しみができるようにしました。
- カ 所要摂取カロリーは、680キロカロリーを基準としました。
- キ 給食委員会を定期的に関催し、利用者の意見や要望を取入れるようにしました

平成25年度各月の給食費の状況

区分	給食費 (円)	延べ利用者数 (人)	単価 (円)
平成25年4月	88,861	273	325
5月	96,022	295	325
6月	84,955	261	325
7月	91,465	281	325
8月	74,865	230	325
9月	70,308	216	325
10月	72,912	224	325
11月	56,962	175	325

12月	58,265	179	325
平成26年1月	66,402	204	325
2月	65,425	201	325
3月	67,053	206	325
平均	90,560	283	320

平成25年度各月の栄養量

区分	エネルギー kcal	蛋白質 g	加糖 mg	鉄 mg	ビタミンA ug	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg
25年4月	657	24.5	166	2.9	228	0.27	0.22	34
5月	656	25.0	171	2.7	194	0.30	0.22	32
6月	692	26.2	192	3.0	294	0.31	0.30	33
7月	651	25.1	173	2.7	271	0.30	0.23	28
8月	645	24.0	176	2.6	283	0.30	0.20	36
9月	632	22.3	162	2.4	176	0.23	0.23	29
10月	643	24.3	167	2.5	180	0.24	0.26	32
11月	649	23.9	172	2.6	254	0.29	0.21	30
12月	650	24.7	177	2.6	236	0.27	0.28	32
26年1月	618	21.8	156	2.5	191	0.28	0.25	34
2月	635	23.9	163	2.5	205	0.26	0.26	30
3月	650	23.7	165	2.6	212	0.27	0.29	29
平均	648	24.1	170	2.6	227	0.25	0.25	32

(5)健康管理とその保持に努めました。

定期健康診断実施状況（嘱託医の伊与木クリニック）

利用者	従業者	計
15	6	21

インフルエンザ予防接種状況

利用者	従業者	計
8	7	15

4 利用者の確保に向けた取り組みに努力しました。

(1) 利用契約者25名を目標に下記の取り組みを行いカトレアのPRに努めました。

特別支援学校や地域活動支援センターとの連携を密にしました。施設見学などを通して、実習生の受け入れや学校行事にも積極的に参加しました。

行政との連携による情報聴取に努める利用者の実態把握、紹介依頼、施設の状況報告、ケース会などへ積極的に参加しました。

地域との連携に努めました。民生委員、地区老人会、JA、婦人部等団体との交流や、行事、作業を通して親睦を図り、協力体制を築いていくよう努めました。各種イベントに積極的に参加しました。ふれあいフェスタ、高知りハビリテーション学院祭、障がい者スポーツ大会等に参加しました。

各部会への参加を通じて情報交換の場を作り、施設間の連携を図りました。
 (2) 平成 25 年 4 月以降、5 名の入所があり、利用契約者が 23 名となりました。

利用契約の状況

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

障がい 区分	規模 利用時間	身体	精神	知的	計
契約者	併設型	1 人	3 人	19 人	23 人

男女 別月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	
人数	男	18	18	18	18	19	15	15	15	14	14	15	16
	女	5	5	5	5	5	5	5	5	6	6	7	7
	合計	23	23	23	23	24	20	20	20	20	20	22	23

年齢別

	身体	精神	知的	合計
18～19歳	0	0	1	1
20～29歳	0	0	9	9
30～39歳	0	1	5	5
40～49歳	0	2	1	3
50～59歳	1	0	2	3
60～69歳	0	0	1	1
合計	1	3	18	23

月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計/@
平成 25 年度	利用契約者数	19	19	19	19	21	22	23	23	23	23	23	21.4
	開所日数	22	22	21	23	20	20	23	20	20	20	21	252.0
	出勤のべ人数	338	356	324	322	274	255	274	233	234	256	252	3398
	1日平均 稼働率	15.4 76.8%	16.2 80.9%	15.4 77.1%	14.0 70.0%	13.7 68.5%	12.8 63.8%	11.9 59.6%	11.7 58.3%	11.7 58.5%	12.8 64.0%	12.6 63.0%	13.3 66.7%
22 年度	利用契約者数	15	15	16	17	17	17	17	17	17	17	17	16.6
	1日平均	13.0	12.6	12.9	14.3	14.5	15.4	13.5	14.5	13.7	14.8	14.5	14.0
	稼働率	65.2%	63.2%	64.5%	71.6%	72.3%	77.1%	67.5%	72.6%	68.3%	74.0%	72.5%	68.9%
23 年度	利用契約者数	17	17	17	18	18	18	18	18	18	18	19	17.8
	1日平均	12.9	13.8	13.8	13.3	13.1	14.5	13.7	14.3	14.4	14.1	13.0	13.7
	稼働率	64.5%	69.0%	68.9%	66.3%	65.7%	72.6%	68.4%	71.4%	71.8%	70.3%	64.8%	67.3%
24 年度	利用契約者数	19	19	19	19	21	22	23	23	23	23	23	21.4
	1日平均	14.8	14.8	14.4	14.8	14.7	16.8	16.8	15.6	15.4	15.4	14.9	15.4
	稼働率	73.8%	73.9%	72.1%	74.1%	73.3%	84.0%	84.1%	78.2%	76.9%	76.8%	74.3%	79.8%

5 職員の資質の向上のための取り組みに努力しました。福祉の理念の徹底、就労支援施設の目標についての学習を行い、利用者に質の高いサービスを提供できる職員の養成にしました。

(1) 目標

利用者の障がい特性に対する理解の徹底を図りました。

施設内外の研修会への参加を推進しました。

福祉の理念、福祉に携わる職員としての心得、障がいと支援、質の高いサービスの提供等についての学習を行いました。

朝の職員ミーティング後、様々な資料やテキストなどの読み合わせを行いました。

業務改善提案表彰制度を活用し、気付きの心を持って支援にあたりました。

報告、連絡、相談の徹底を図りました。

(2) 職員の配置状況

()内は、兼務職員

職種名	施設長	管理責任者 サービス	事務員	生活支援員	職業指導員	運転手	パート技師	医師	看護師	栄養士	合計
職員配置数	1	1	1	1	3	1	1	1(1)	1(1)	1(1)	12(3)

(3) 会議等の開催状況

施設運営関係

会議名	実施日	記録	参加者	主な議題など
朝のミーティング	出勤日・朝	有	送迎当番以外の職員	出欠状況、当日の予定
夕礼	出勤日・夕	有	送迎当番以外の職員	当日の結果報告
職員会	月1回以上	有	全職員	施設運営全般
安全衛生委員会	月1回	有	施設長 サービス管理責任者	利用者の安全衛生対策
サービス改善委員会	月1回	有	施設長 サービス管理責任者	業務改善提案審査
虐待防止委員会	月1回	有	施設長 サービス管理責任者	虐待防止の取組
ゾーン連絡会	月1回	有	施設長 サービス管理責任者	翌月の予定、連絡事項
個別支援会議	随時	有	全職員	個別支援計画書作成
施設運営委員会	定例会年3回 月例会年9回	有	施設長 サービス管理責任者	利用者、家族からの苦情 解決機関

利用者サービス関係

会議名	実施日	記録	参加者	主な議題など
利用者懇談会	月1回	有	全職員	施設運営などの意見交換

給食委員会	定期的	有	栄養士、全職員	給食についての意見交換
施設運営委員相談日	月1回	有		第3者委員の相談受付
自治会	月1回	有	全職員	自治会運営について

(4) 学習会、研修会参加状況

研 修 会	実施年月日	実施場 所	人員	参加者
中堅職員研修会	平成25年7月31日	高知市	1	職員2名
福祉サービス苦情解決セミナー	9月6日	高知市	1	職員1名
福祉施設等職員研修会	10月18日	いの町	1	職員1名
中国・四国社会就労センター協議会職員研修会	11月28日～29日	高知市	3	所長・職員2名
中国・四国ブロック福祉施設士セミナー	11月12日	高知市	2	職員2名
介護記録の正しい書き方セミナー	12月18日	高知市	1	職員1名
高知県社会就労センター協議会合同職員研修会	平成26年1月10日 ～1月11日	高知市	4	所長・職員3名
AED 夜間研修会	2月12日	土佐市	3	職員3名
高知大学教育学部附属特別支援学校 教育研究会	2月14日	高知市	1	職員1名
障害福祉サービス事業所向け行政説明会	3月13日	高知市	1	職員1名

6 利用者の安全、安心が保障されたサービスの提供に努めました。

(1) 利用者の安全、安心への取り組み

毎月1回、利用者懇談会を実施し、利用者からの要望や意見を聴く機会を作りました。

11月より3月末まで感染症対策で毎週月曜日に消毒を実施しました。

リスクマネジメントに力を入れました。

- ・ヒヤリハット、事故報告書の報告用紙の記載内容の検討と作成
- ・定期的に、事故の要因の分析、事故予防対策について検討しました。

(2) 施設・整備の充実とその維持管理に努めました。

施設内の整理整頓および清掃による環境美化に努めました。

プランターに四季の花を植え、快適で潤いのある生活環境を作るようにしました。

設備保守点検は、自主点検や外部委託などの方法等により十分配慮しました。

(3) 施設の災害や利用者の事故防止など、安全対策に努めました。

非常災害時に備えて、地域の方々の協力を得るため、地域住民との連携を深めるように努めました。

総合的な防災訓練、避難訓練の内容は、次の通りでした。

避難訓練等の実施状況

月 訓練内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	回数 計
避難誘導訓練		5/29						11/29					2
消火訓練		5/29						11/29					2

通報訓練												3/24	1
地震訓練													0
図上訓練		5/29						11/29					2

施設の内外に発生する傷害事故などの予防に努めました。
 万一事故が発生した場合、速やかに事故防止対策会議を開き、その解決に努めました。
 施設設備の管理や防災上で重要な場所または、火気を扱う場所では、管理責任者を置き、その責任体制を明らかにしました。
 施設整備の点検は別に定める方法で行い、改善の結果はお知らせするよう努めました。
 業務上の各種マニュアルを整備し、利用者の生命の安全、保健衛生の徹底に努めました。

7 作業運営

(1) 利用者の工賃アップへの取り組み

各事業部に事業運営委員会を設置。(職員の運営委員会、利用者の運営委員会)責任者を決め、各事業部の事業内容や、収益高、問題課題について定期的に報告発表を行い、改善についての検討を行いました。(商品の品質の改善、販売先の確保、作業時間の検討)
 工賃向上計画を作成し、その目標達成に向けて努力いたしました。

(2) 事業の拡大への取り組み

バイオディーゼル、しょうが粉などはターゲットを絞った営業活動を実施し、新規顧客の拡大、販売量のアップを図ります。
 ウィール社、ファーストと協力し、作業や販売網の連携、新規自主商品の開発などを図ります。

(3) 各事業部売り上げ実績は次の通りでした。

	23年度売上	24年度売上	25年度売上	月平均	前年差	対前年比
バイオディーゼル販売	3,232,785	2,622,605	2,354,530	196,211	-268,075	89.8%
廃油販売	0	1,037,300	1,589,600	132,467	552,300	153.2%
食品加工(ミョウガ、生姜)	2,495,510	1,991,340	1,203,135	100,261	-788,205	60.4%
農場	0	41,640	55,670	4,639	14,030	133.7%
カトレア・アイ	85,400	12,450	0	0	-12,450	0.0%
喫茶	2,179,814	2,606,147	2,280,425	190,035	325,722	87.5%
空調清掃	197,000	197,000	205,200	17,100	8,200	104.2%
リサイクル	152,851	119,704	97,226	8,102	-22,478	81.2%
その他	63,800	537,845	622,618	51,885	84,773	115.8%
合計	8,407,160	9,166,031	8,408,404	700,700	-757,627	91.7%

(4) 各事業部の取組

バイオディーゼル部門

バイオディーゼルの取引先が新車購入に伴い購入量が減り、バイオディーゼルの売上は落ち込んでしまいましたが、昨年度より某企業の廃油回収先を引き継いだため、廃油の月間の回収量がほぼ倍増となりました。そこで、バイオディーゼルに生成しなかった廃油の販売を始めたため、バイオ部門は増収増益となっています。しかし、今後は、回収量の増大による効率の良い回収ルートの作成、新規大口取引先の獲得が必要であると考えます。

食品加工部門(みょうがの漬物、ショウガ粉の加工販売等)

地域の特産品を利用した加工品作りの、カトレアでは1番古い作業部門です。ショウガ粉の加工販売は以前の生姜ブームほどの売上にはならず、文旦産直協同組合などの協力はありましたが大きく落ち込んでしまいました。また、みょうがの漬物は木曜日や売り歩きなど直接販売でなければ売れず、大きなアップは望めない状況となっています。

カトレア・アイ部門(環境浄化水マイエンザの精製販売)

サンプルやチラシの配布、営業にての紹介などをするが実績は厳しい状態です。今後の展開は検討をする必要があります。

喫茶部門

4名の利用者が作業を行っています。顧客は施設職員や入所者とその家族がほとんどですが、波介地区老人会にて毎月数回の利用があり、安定した売上を残すことができました。しかし、今年度より週末の開業を取りやめ、グループホームの弁当販売などがなくなった分の減収をメニューの見直しやパック販売などを実施し、売上と利益の確保をすることが必要となっています。

請負作業部門(空調清掃)

支援施設とさの空調清掃を年2回、使用量が増える前(5月、10月予定)に実施しています。今後もトラブルなく作業を行い、継続していきたいと考えています。

リサイクル部門

現在3名の利用者が他の作業との掛け持ちをしながら空き缶などの分別等の作業を行っています。空き缶などの回収量は増加傾向にありますが、金属の価格変動があり、下落した状態が続いているため、今後も価格の動向を確認しながら、少しでも高値での販売をしていきたいと考えています。

生姜・野菜乾燥工場部門

作業の安定性・工賃の向上を図る為、永谷園の子会社であるサニーフーズより、生姜乾燥チップの請負作業を開始しました。乾燥工場は平成26年2月末に完成し、販売開始に向け体制を整備しています。